

## 平成28年度(2016) 第2回 総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成28年(2016) 8月31日(水) 午後1時30分

2. 会 場 出雲市役所 3階市民応接室

3. 出席者

(構成員)

出 雲 市 長	長 岡 秀 人
教 育 委 員 長	本 田 惠 子
教育委員(委員長職務代理)	松 浦 剛 司
教 育 委 員	下 手 泰 子
教 育 委 員	小 豆 澤 貴 洋
教 育 長	榎 野 信 幸

(関係者)

出 雲 市 副 市 長	伊 藤 功
-------------	-------

(事務局職員)

教 育 部 長	杉 谷 学
教育部次長(教育政策課長)	小 山 裕 美
教育部次長(学校教育課長)	安 井 孝 治
児童生徒支援課長	竹 田 博 司
教育施設課長	金 山 隆 司
学校給食課長	木 代 伸 治
出雲科学館館長	山 本 利 明
保育幼稚園課長	坂 本 伸 仁

## 開会

(杉谷部長)

失礼します。定刻になりましたので、只今から、第2回総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして、長岡市長がごあいさつ申し上げます。

(長岡市長)

みなさん、こんにちは。お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。第2回目の総合教育会議ということで、今日はあらかじめご案内しておりましたように、出雲市の教育大綱の策定について、ご協議をお願いしたいと思います。基本的な部分で、出雲ならではの新しい何かを、というような思いは皆、共通にお持ちでしょうけど、そうは言っても教育の本質の部分はそう変わらないだろうと思っております。文部科学大臣の部屋に飾ってある書に、「不易流行」というのがありますが、とにかく基本的な部分はしっかりと守りながらも、その時代にあったものを取り入れていくという、これが基本的な考え方ではないかと思っています。いずれにしても今日はこれを中心に、お互いにしっかりと、ご議論をいただきたいと考えております。この大綱を踏まえた上で、第3期出雲市教育振興計画を策定する予定としておりまして、現在、教育政策審議会の皆さん方へ諮問をしているところでございます。この教育振興計画が、今後5年間、出雲市の教育行政の基本となるものでございます。そういったこともふまえて、活発なご意見を期待しております。よろしく申し上げます。

(杉谷部長)

続きまして、本田教育委員長からごあいさついただきます。

(本田委員長)

失礼します。第2回総合教育会議の開催にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。長岡市長様、伊藤副市長様におかれましては、日頃から様々な教育施策につきましてご理解、ご支援をいただいていることに対しまして、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

さて、先日まで、ブラジルのリオデジャネイロでオリンピックが開催され、連日テレビ等で報道されておりました。今回は、日本の選手がいろいろな種目で活躍し、獲得したメダルの数も多く、見ていて誇らしく、うれしくなりました。こうした成果はもちろん、選手個人の才能や努力があつてのことですが、国としても力を入れて計画的に選手育成をしたからだ、と、テレビの解説者が言うのを聞きました。環境を整えて、対策、工夫をすれば結果が出るとあらためて思いました。出雲市でも中学総体、高校総体、出雲高校の甲子園初出場に続きまして、来月から開催されるパラリンピックに、出雲市出身の三木選手が出場されるなど、昨今何かとスポーツの話題が多いですけれども、スポーツだけに限らず、文化や芸術などあらゆる分野で、子どもたちが夢を持ち、努力していくよう支えていきたいと思っております。今後とも引き続きましてさらなるご理解、ご支援くださいますようよろしくお願いいたします。

(杉谷部長)

ありがとうございました。それでは早速、協議に入りたいと思います。これからは総合教育会議設置要綱第4条の規定によりまして、市長に進行をお願いします。

(長岡市長)

それでは、協議事項に入りたいと思います。最初に、大綱の策定について、協議をしたいと思いますが、事務局から、説明をお願いします。

(小山次長)

では、失礼します。

(以下、「大綱について」の資料説明)

(長岡市長)

先ほどの説明につきまして、ご質問、ご意見はありませんか。

(下手委員)

私は先日、協議会のときも意見を述べたのですが、教育目標の1のところに、「豊かな心と健やかな体をもち」と書いてあるのですが、「健やかな体」のところに引っかかってしまって、いろいろな障がいや病気を持って、がんばっている子どもたちはたくさんいるので、私はむしろ「豊かな心で自信をもって生きぬく人を育てる」というような言い方でもいいのかなと思っていました。いろいろな文科省のホームページも調べたんですけど、「健やかな体」というのは確かにすごく使われているので、使って悪くはないでしょうけど、私の気持ちとしてこの場で、そういうところへの配慮とか思いというのは、あっていいのかなと思います。

それから重点目標の中に、「郷土への誇りと愛着をもって」に関する項目が入ってなくてもいいのかなと思います。今、郷土愛とかふるさと教育だけではなくて、日本を愛する心とか、そういった教育というのはとても大切だと思いますので、別立てで「郷土愛」について書いてもいいのかなと思います。この2点について思ったところです。

(長岡市長)

はい、ありがとうございます。ほかの皆さんはどうですか。

(小豆澤委員)

「たくましい人づくり」の前に「しなやかで」という言葉があって、「たくましい」というのはいろいろなところから感じ取れるわけですが、「しなやか」というのが、どのような考えといいますか、状況でそれぞれの目標に反映されているのか、ちょっとわかりにくくて、今、ちょっと辞書で調べると、「柔軟性」とか「上品な様」というような意味が取り上げられているところを見ると、どう解釈していいのか悩むところがあります。

(長岡市長)

一通り皆さんから、感想を聞きたいと思います。いかがですか。

(松浦委員)

先日、下手委員さんが「健やか」についておっしゃっていたことは、良くわかりますが、それでもやっぱり障がいを持つ子どもたちも、健常な子どもたちも病気にならないということもあると思うので、そういう意味で言うと「健やか」というのは大枠の解釈としては、私はこれでもいいとは思いますが、下手さんの意見の背景にあることを考えると、どちらがよいのか良くわかりません。

(本田委員長)

確かに「健やかな体」というと、その言葉にいろいろなお気持ちを持つ人がおられることはわかります。突き詰めて考えると、100%パーフェクトな人間というのは誰もいなくて、誰もちょっとずつどこか、大きくか小さくか、重くか軽くか、見えるか見えないかはいろいろありますが、何かしらあると思います。ではそれで「健やかな体」というのを使ってはいけないかということ、私はそうではなくて、目標としてはそれを持ってきても悪くはないと思います。でも重点目標の「一人一人を大切に教育」の②の「特別支援教育」の中で、身体的障がいや発達障がいなど、そういった方に対してのこともきちんと記載されていますので、「健やかな体」という言葉はこのまま残してもいいのではないかと思います。私もこの前の協議会から、国の文書とか法律とかいろいろ見てみましたが、やはり「健やかな体」という言葉は見かけられますし、今社会では、使うことが許されている表現なのかなと思います。

(長岡市長)

ありがとうございました。やはり皆さん、「健やかな体」という表現についていろいろな思いをお持ちのようですが、大きな枠の中での「健やかな」というところについてはいいのではないかという話はあるんですが、下手さんの思いの部分と若干違いがあるということと、教育目標で「郷土愛」と言っておきながら、重点目標等にはないではないかというご指摘、それから基本理念のところの「しなやか」という表現がいったい何を意味しているか、というような皆さんのご質問、ご意見がありました。協議会で議論された話かもしれませんが、今一度、事務局の方で先ほど来のご懸念の件について、解説があればお願いします。

(小山次長)

教育目標の中で、「郷土への誇りと愛着をもち、社会の発展に寄与する人を育てます」としてあります。大綱があつて、その先の第3期出雲市教育振興計画に記載する具体的な取組の中に、子どもたちに郷土への誇りと愛着をもたせるような取組を入れ込んでいく予定です。

それから、「しなやかでたくましい」というのは、柔軟でいろいろな場面に対応して

いけるという意味であり、そのために豊かな心であったり、健やかな体であったり、いろいろな力をつけていくということにつながっていくと、事務局の方では考えています。

(槇野教育長)

「健やかな体」については、先ほどずっと受けとめ方の話がありましたが、下手委員さんのお気持ちは私も非常によくわかります。ただ全般的な国の表現とか、一般的な表現として「健やかな体」という表現はよく使われているということと、障がいがあってもなくても健やかさを保つということは当然ありますので、先ほど本田委員長さんからパーフェクトじゃないという話もありましたが、それぞれに応じた健やかさを兼ね備えるという意味合いで解釈しておりますので、できればこういった表現を使わせていただきたいと思います。

それから「しなやか」という部分については事務局からも話がありましたが、ただたくましいだけではだめだという意味合いでこの「しなやか」という言葉を付け加えて、両方兼ね備えた人をつくりたいという願いが込められていると思っています。

「ふるさとへの愛着」というのは、先ほど事務局の説明はありましたが、私が今聞いていまして、重点目標の中のひとつの項目立てで、この地方創生の時代にですね、何かあってもいいのかなという思いをして受けとめたところですが、いかがでしょうか。

(長岡市長)

はい。「健やかな体」という話は、だいたいそういうことでよろしいですか。

(下手委員)

はい。私は、取っていただきたいというよりは、そういう思いを述べさせていただいたということです。

(長岡市長)

「しなやかな」というところは、どうでしょうか。

(小豆澤委員)

柔軟性という意味でしょうか。

(槇野教育長)

そうですね。単に力強くて、というよりは・・・。

(長岡市長)

やさしさと言うか、力強いだけではなくて、周りに対するやさしさというものが表現できたらいいですが、「しなやか」というと・・・。

(槇野教育長)

言葉の使い方は、いろいろあるかもしれませんね。

(小豆澤委員)

だいたい自分が、「しなやか」という意味をしっかりと知らなかったという部分と、それに加えて辞書を引いてみると、柔軟性だったり、初めて上品という意味を持っているのがわかりましたが、「しなやか」という言葉をここ最近よく目にするようになったものですから、どういうことに位置づけてお使いになったのか知りたかったということです。

(長岡市長)

伊藤副市長はいろいろ話を聞いておられて、何かありませんか。

(伊藤副市長)

言葉のことは、いろいろ議論があるところですけど、世界にはばたいて、みんな出してしまうと困るなど、単純に思っています。「出雲の未来を切り拓く」というところと、「世界にはばたく人を育てます」というところが、言葉だけのニュアンスでつながりをみると、どうなのかなと思いました。「健やかな体」というのは、「健やかな体」の解説的な文章を見ると、障がいをお持ちの方が、というところはないのかなという気がしています。

(長岡市長)

「出雲の未来を切り拓く」と言いながら、「世界にはばたく人を育てます」ということとの関係がどうでしょうか。

(槇野教育長)

「世界にはばたく」というのは、世界と伍してというか、そういう意味です。もちろん、世界的に活躍する、ということもあります。

(小豆澤委員)

世界にはばたく前提でこの地域をよく知って、ここに軸があって、という感じを自分は受けていたので、地元を軸にしてみた世界に挑戦していくということかなと思っていたので、これはこれでいいのかなと思っていました。

海外で勤務していると、外国の人に日本のことを聞かれて答えられないことがあって、日本人で集まって日本の勉強をしたりも密かにしていました。やはり自分たちの暮らす地域を知っているということは、世界で活動するには必要なことのような気がしています。だから郷土への誇りと愛着をもった教育をされるのはすばらしいと思います。

(長岡市長)

そういう意味で先ほど教育長が、重点目標のもう一項を追加してでもそれを表現したいということですので、世界にはばたくことも含めて、何かいい目標を考えてください。

(槇野教育長)

重点目標を入れたときに、周りとのバランスというかレベル合わせというか、そういうことがありますので、スッと入りにくいかなと思って見えています。

(長岡市長)

教育目標に3つ挙げて、(1) (3)は重点目標にきちんと表現して、間の(2)が抜けているのがむしろ不自然だという話だと思います。

(槇野教育長)

先ほども申しましたが、この地方創生の時代にですね、やはり何かあったらいいかなという思いもありますし、事実ふるさと学習やキャリア教育などは力を入れてやってきていますし、何らかの形でここへ入れることを検討させていただければと思います。

(松浦委員)

先ほどの小豆澤さんの意見を踏まえてですが、先日錦織圭がオリンピックへ出たときのコメントで、世界で活躍すればするほど国や郷土を意識するような思いで、その中でオリンピックに出るのは意味合いがあったと言っていました。これと同じでして世界にはばたく人の中に、そもそもの愛国心であったり郷土愛であったり、そういうものが醸成されている者が世界に通じたときに、本来の意味で世界に通用する人間ということになるのかなと思います。教育長がおっしゃるように、世界にはばたくということと、郷土への誇りと愛着というのをバランスをとった形で、ひとつ入れてもらったらいと感じました。

(本田委員長)

郷土への誇りと愛着をもつというところで、重点目標に言葉を入れるとすると、思うのはこの地ならではの言葉、「ご縁」などの言葉を入れて、「この地に生まれたご縁を思い」とか、そうすると出雲らしさがその言葉で出るかなと思います。

(杉谷部長)

今までおっしゃっていただいた、出雲らしさということを経営の中で出そうとすると、委員長さんがおっしゃった言葉であるとか、取り出し方というのはできるような気がします。今すぐには示せませんが、キーワード的なものを協議の中で出していただいと、私たちも考えやすいです。

(槇野教育長)

重点目標の、3番目に入れてはどうかという気がしています。「(1) 一人一人に生きる力を育む教育」と「(2) 一人一人を大切に作る教育」の後へ、例えば「ふるさとへの愛着と誇りを醸成する教育」とかいうのをに入れてはどうかと思います。中身は先ほどおっしゃったようなキーワードがあれば入れていけば、出雲らしさがそこに出せるという気がします。

(長岡市長)

ということで、教育長、事務局に一任するということで、よろしいですか。

(各委員)

はい。

(長岡市長)

では、そういうことでお願いします。先ほどのいろいろなご意見を踏まえて、最終決定をさせていただきたいと思います。次回の定例の教育委員会で、報告があろうかと思っておりますので、期待をしてお待ちください。

それでは、議題の2番目になりますが、来年度の主要事業等にかかる協議に入りたいと思います。

(事業計画及び予算に関する事項のため、非公開)

(長岡市長)

それでは、今から意見交換を行いたいと思います。普段それぞれお感じになっている思いなど、どんなことでもよろしいですので、ぜひお話をいただけたらと思います。

最初に小豆澤さん、教育委員になられて3か月、ご感想がありますか。

(小豆澤委員)

自分の知らなかったことを、たくさんこの場で知ることができたことに、まず単純に喜びを感じています。その中で、一番衝撃的に印象に残っているのは、単年度の数字だったかもしれませんが、不登校児の復帰率が7割を超えています、というお話を聞いたときに、非常に衝撃的な印象を受けました。今度、ハローワークさんと出雲市の障がい福祉の方で、ジョブガイダンスというのをします。障がいを持った方々の就職ガイダンスですね。先日、その打ち合わせの中でもその話をしたら、やはり福祉の人たちからみても、この7割という数字にすごい驚きをもって捉えられます。定例の教育委員会の場で、もっとPRした方がいいんじゃないですかとも言いました。やはりこの数字は驚異的ですし、私も就労支援事業をしていますけれど、うちの就労支援事業所の利用者が、7割も一般の企業に就職できたということがあるなら、私の会社の就労支援事業所は、日本一だと思います。数字にこだわる部分ではないのかもしれませんが、7割という数字にはただただ驚きました。現場でも、斐川のコスモス教室にも行かせてもらいましたが、そこに従事される方々のご努力に敬意を表したい気持ちです。

(長岡市長)

下手委員さんは、引き続き教育委員をお願いしたところですが、それも含めて何かありますか。

(下手委員)

図書館のことについては、結構この総合教育会議のテーマに挙げていただき、大変うれしく思っています。今、子どもの心を育てることがすごく難しい時代になってきていて、その中で本を読むという本当に原始的なことですが、何十年、百年単位で読まれている本を子どもたちに手渡すという活動を十何年しております。このところ特に中学校とか行きますと、地道な活動の中で、クラスの中で一人でも、「あの本を読んで面白かったよ」と言ってくれることがたまにあって、それが私たちの生きがいになっていたりするものですし、自信をもって「本を読むって素晴らしいことだよ」と言えるので、続けていきたいと思っています。そして、こういう場でお話を聞いていただける機会があることに、大変感謝しております。

(長岡市長)

松浦委員は、どうですか。

(松浦委員)

はい。教育委員になる前から少し思っていたことがありまして、ちょうど今私も子を持つ世代として、幼稚園でも保護者会から関わって、今小学校に行って、私は教育委員になったんですけれど、先日の校長懇談会でも感じたことですが、家庭学習や家庭教育の大切さを考えたときに、幼児教育から何とかしていかなければならない問題も、非常に多いんじゃないかなと思います。ただ、今の家庭環境の中で、幼稚園に行かず保育所に行かれる方が多数になってきている中で、私も学校の教育現場の話の聞いたり、児童クラブの実態を見ると、なかなか保育所から上がってこられたお子さんが、家庭環境的にしっかりと対話ができなかったり、ということを考えてときに、非常に小学校の教育に関して、もともとの幼稚園や保育所の幼児教育の問題が大きく関わってきているんじゃないかと思っていました。そうして今、教育大綱の中で幼児のことも書きながら、市の体制が教育委員会では幼稚園が微妙な位置にあって、そこに問題点があると思うと、ちゃんと出雲市の教育委員会として、保育所も幼稚園も管轄に入れて、幼児教育ということをしつかりと考えてやっていくべきではないかと感じています。ただ保育所は民間が多くて、その理事長さんに話を聞くと、保育所は保育所ですごく研修が多くて、勉強は重ねてはいらっしゃるんですけれど、出雲の教育って考えたときには、窓口を一本化して教育委員会が管轄する体制を作っていくって、出雲の幼児教育の確立というものを、もう少し踏み込まれてもいいんじゃないかと感じています。ただそれには、文部科学省と厚生労働省の問題もあると思うので、わからないこともいっぱいあるんですけれど、同じ出雲の子どもたちがこの教育委員会の管轄に入ってくるということを、考えていかななくてはいけない時期に来ているんじゃないかと思っています。

(長岡市長)

今の幼稚園と保育所、おっしゃるように文科省と厚労省の所管の違いがあって、昔から幼保一元化の話が少しも進まない。その中でこの出雲市にあっては、子ども未来部というのを今年度から新設して、幼稚園と保育所を一緒にして、そういう意味では窓口一本化と

ということで、教育委員会とは若干距離がありますが、もともと教育委員会が幼稚園と保育所を両方持ちたいとか、いろいろな意見がありました。そういう中で、どちらかに一元化するとしたらということで、今年スタートしたところでもあります。今までもいろいろなやり取りの中で、就学前、特に早い段階での様々な発見とといいますか、健診との関係とか、それが小学校入学のときにうまくつながっていけるような仕組みを作らなくてはいけないということを、私もかつて平田時代は学校教育も幼稚園も保育所もやっていましたので、一本化が小さな町なので楽だったですけど、これぐらい大きいところだと、いろいろ難しい問題もあったりして、結果的には今、そういう状況でスタートしているところです。教育委員会としてのかかわりの部分が、薄れてくるということはありませんよね。

(槇野教育長)

幼稚園の側も不満といいますか、小学校との関係を考えたときに、そういう不満みたいなものを感じられることと、こちらからも手を伸ばしにくいということはありません。先ほど松浦委員がおっしゃったように、保育所を含めて就学前教育という部分では、かなり力を入れていかないといけないわけですが、教育委員会が直接その号令をかけるとか、呼びかけるにしてもなかなか今の状況だと難しい面も多いものですから、もっと市全体が就学前の教育だからということで、幼稚園も保育所も一緒になって境目なくそれぞれが取り組んでいけるような仕組みづくりをしていけたらいいと思いますが、今のところはやりにくい面があるかなと思います。

(長岡市長)

情報を共有するという前提の下に、定期的な連絡会議というか、そういうものは開催されていますが、現状となるとなかなか難しいですね。

(伊藤副市長)

旧出雲でも、教育委員会が保育所を所管したことがありましたけれど、結局うまくいかなくて元に戻ったという中で、就学前というひとつの切り口で幼稚園と保育所を一つの部が持っている。おっしゃるように縦の、義務教育とのつながりが難しいところがある。情報交換はしていますけれど、線があるのは間違いなくありますので、幼稚園を教育委員会から離すときに議論はしましたけれど、当時の判断としては義務教育に特化しようと、つまり学校教育を主にやっていくということで、今のスタイルになったということです。保育所に教育を持ち込むのは、ほとんど民間保育所ですから、非常に難しいですね。

(松浦委員)

ただ保育所の先生方からすれば、ほとんどそんな色ないことをやっているというおつもりではいらっしゃるんですよね。

(長岡市長)

保育所の先生方からするとそうだけど、幼稚園からみるとそうではない。

(槇野教育長)

学習指導要領が変わりますが、その中で幼児教育のことも書かれていまして、保育所の学習指導要領に相当する保育指針の方も、改正されるということもあって、流れ的には就学前教育を意識したものに変わっていくと思います。

(長岡市長)

就学前教育をストレートに言えるのは、幼稚園の方です。保育所は、そうではないという意識は皆さんあると思います。仕組み的にも主担任がいて、複数の保育士と一緒にクラスを持っているという、本当の担任制とも違うところがあります。研究教育やいろいろなことは、幼稚園は相当されますし、その辺も大きな違いがあります。保育所の中でもいろいろな就学前教育のことも取り入れて、精力的にやっておられるところもいくつかありますが、全部が同じレベルで同じことができるかといったら、それはなかなか難しいです。幼稚園の方が、はるかに統一的なシステムもできている状況です。そういう中で出雲にあっては、学校教育の前段のところの重要性というのは皆さんわかっているけど、仕組みとして教育委員会がどこまでそこに関与できるかということになると、難しいところがあると思いますね。1歳半健診、3歳児健診や、今までだと、就学前の指導委員会の段階で、来年入学するのにどこがいいかという話をしていました。もっと早い段階から、その辺がずっとつながっていくような仕組みになっていけばと思いますが、それは難しい話です。というところで、この話は置きたいと思います。

(長岡市長)

本田委員長さんは、現在の教育委員会制度の、出雲市の最後の委員長さんということですが、何かありますか。

(本田委員長)

最後の教育委員長ということで、責務の大きさに固まってしまっていたのですが、少し硬さも取れてきたのかなと思っています。

思うのは、私たちが小さい子どものころから変わらない課題もずっとあるし、新しい教育課題も次から次へと、よくもこんなに生まれてくるもんだなと思います。それに対応していかなければならないし、大変なことだと思います。予算をつけていただいたり、取り上げていただいたり、本当に良くしていただいていると思います。

(長岡市長)

やりたいことは山ほどあって、全部必要なことはわかっていますけれど、残念ながら全部を一気にということはなりません。

(本田委員長)

本当に次から次へとたくさん、どれも重要なことが出てきますし、現場でも生まれるし、国からも言われるし、よくもこんなにいろいろあるもんだなと思います。終わりがありませんね。

(長岡市長)

最初の委員長さんのあいさつにありましたが、この夏、特に出雲の若い人たちがいろいろな場面でがんばりました。甲子園もだし、出雲農林高校のカヌー部は2冠を制して全国制覇、それから大社中学の100メートルハードルの長崎さんが、全国1になりましたね。予選、準決、決勝と、3回とも13秒台を出したのは彼女一人だったそうです。今3年生ですからね。いずれ東京オリンピックには何歳か、ちょうどいい頃かなと、思ったりしますね。男子の110メートルで優勝した子は、東京オリンピックに出ますとはつきりインタビューで言っています。そのほかにも少年野球とか、吹奏楽、合唱はいずれもですし、それから俳句甲子園に初めて島根県から出ました。高校生の全国そば打ち選手権も、2年目ですが今年も挑戦しました。いろいろな種目で若い皆さんが活躍されるというのも、やはり学校教育、あるいはそれ以前のものがベースになって、日本ではばたいている子がたくさんいて、ありがたい話です。

ほかに個別の何か、課題等はありませんか。

(松浦委員)

先日、文部科学省のニュースで言っていました、教員採用の枠が多くなるんですか。

(槇野教育長)

財務省の思惑と文部科学省の思惑が全然違いますので、同床異夢というか、どうなってくるかわかりません。

(長岡市長)

いつも文部科学省が概算要求したものを、ぱっと出すんです。いかにもその記事を見ると、来年はいいかと思いますが、ところが・・

(松浦委員)

そういうことではないんですか。

(小豆澤委員)

先ほど、親目線という部分で感じるのですが、自分から見て子どもの学校生活で感じることは、自分たちの頃以上に、変わったことをすることが許されない窮屈さがあるなというのは、非常に感じますね。みんなが同じじゃないといけないという雰囲気、我々の頃以上に浸透しているような気がしています。何かいいことなら改良的なんだけど、それが悪いことになると、そんな細かいところから何からみんな同じじゃないといけないというような風潮が、ちょっと強いような気がして、自分も中学校、小学校と子どもがいますけど、どちらを見てもそう思いますね。それはそれで彼らが、いろいろなルールに合わせるトレーニングをしているからいいかなとは思いますが、自分たちの頃よりは、窮屈な学校生活をしているなというようには見ています。

(長岡市長)

許容範囲が、非常に狭くなっているということですか。

(小豆澤委員)

いわゆる変わり者が、許されなくなっている感じがしますね。

(槇野教育長)

それは、学校が、ということですか。

(小豆澤委員)

学校の中ですね。生徒たちは、変わってるやつを面白がる、昔の大人が変わったやつを構って遊ぶような、あの雰囲気が残っていますけど、先生と子どもの中では、変わってる子というのはあまり望まれないような空気があります。最近は、よく感じています。

(下手委員)

ラインが今、子どもたちの精神性を支配していて、私はむしろ子どもたちが子どもたちを、何かちょっと変わった子とかを、すごく排除する傾向にあるんじゃないかなとすごく感じて、あの怖さ。既読がついてどうこうとか、都会だけじゃなくて出雲でも。あれも、心の許容範囲を狭めるのかなと感じます。

(小豆澤委員)

養護学校の卒業生で、そういうグループラインがあって、そこでやはり既読スルーの問題や、見たら必ず返事をしなきゃいけないルールがあって、それに反するとひどいじめを受けるといのは、養護学校卒業生でうちで働いている子なんかの事例でいくとそれで悩んでいる、仕事に来ているはずが急に来なくなって、家庭訪問したりいろいろしているうちにそういうのがわかったことがありました。

(長岡市長)

その辺は、現場の方ではどうですか。

(竹田課長)

既読スルーということが直接ではありませんが、ラインからのもめ事といいますか、人間関係のトラブルというようなことになるということは、実際にあります。それはやはり、コミュニケーションが現実の部分とラインの部分で、両方で気を使いながらやっているということが、どうしても子どもたちが息苦しい面もあるかなという気がします。ですから、学校が終わったらすべてが終わるのではなくて、続きがずっと続いているという窮屈感はあるように思います。

(松浦委員)

日本もテレビも、何かしたらみんな叩く風潮ですものね。逸脱すると、ひどいもんで

すね。

(小豆澤委員)

先ほど言った、7割を越える復帰する子どもたちというのはすごい数字だなという驚きをもった一方で、これまでも行革審議会とか、「まち・ひと・しごと」などに関わらせていただく中で、先ほど教育長から地方創生の話がありましたが、あの地方創生の議論が時間の経過とともに置き去りにされていると思います。東京の一極集中という観点がなくなって、何か地方に魅力が、とか地方でどうのこうのと、結局人口の社会増なんかも近隣の大田や雲南の人が、出雲が便利だからといって移住される、これが人口増につながるというのは、もともと意識していたものとは違うような気がしていて、この7割という数字が、私は「東京でPRされたらどうですか」と言ったものの、何か政策で打つものの中に東京の一極集中というものが、もともとあった目標としてははずしてはならないもののような気がします。今の話は、確かに予算上の裏づけも何もないものですから、すぐに旗が振れるものではないかもしれませんが、確かにお父さんだったり仕事をしている人はなかなか来られないにしても、もし本当にここへ来て息子が学校へ通えるようになるのだったらと願う親は、一緒に来てくれる可能性もすごくたくさんあるような材料であることは間違いないんじゃないのかなと思います。これから東京オリンピックや、どんどん東京に集中していく世の中ではありますが、そもそも地方創生がなぜ政策として国を挙げて取り組んだかという中で、あの一極集中が置き去りにされて、片方の人口減の話だけが踊って議論を重ねても、何の意味もないんじゃないかなと思ってみえています。

(長岡市長)

子どもさんの関係で移り住めばということでは、私が聞いた市内の小学校へ転校して来た子どもというのは、自分の子どもにとって一番いいところはどこかというのをネットで自分で調べて、それがその小学校だったということで、親さんも一緒にやってきた。これは、すごいことだ。誰も働きかけていないですよ。下見に一回来たらしいです。まったく見ず知らずのところ、その学校を選んで移り住んできた、そういう人がおられるのはすごいなと思いますね。先ほどおっしゃるように、不登校の関係も、3つの施設をもって運営しているというところは、間違いなくそう他にはないでしょうけれど、そういう思いを抱えた都会の親さんは、いっぱいいらっしゃると思います。特に、その小学校が発信したかどうかはわかりませんが、ああいう形というのは、まだまだ増えると思います。ただ、以前若い人たちが高校生にアンケートしたら、やっぱり出たいと、それは当然だなと思うけど、その率が4年前より高くなっている。逆に、一度は出たいと思うのは自然という気がしますね。

(松浦委員)

私は、地元高校の評議員をしています。去年受験の説明があったときに、最近では親元から離れたくない子、県外の大学へ行ったりする子が非常に減ってきています、という話でした。それは何の理由ですかと聞いたら、親から離れるとご飯を食べるのが大変

だし、楽がいいということで、非常にそういう子が増えてきていますとおっしゃって、何かひ弱な話で問題だなと思って聞いていました。

(槇野教育長)

やはり1回出て、それであらためて良さがわかって、帰ってくるのが一番いいですね。

(長岡市長)

出たことがない人にとっては、比較のしようもないし、本当の良さを知るためには経験が必要だと思いますね。

今、3千人を超える外国人が出雲市内に住んでいまして、日系ブラジル人が2千人を超えました。17万人都市で3千人を超えるというのは、結構な数です。多文化共生、いろいろなことを本格化してやろうとしている中で、学校教育もいろいろな課題が出たりしていますが、結局子どもたちは出たり入ったりしながら110人ぐらいで安定したんですね。あの子どもさんの数が急に増えるということは、想定はどんなものですかね。

(安井次長)

今の状態だとある程度安定すると思いますけれど、それこそ市の姿勢として、来てください、とすれば、さらに増える可能性はあると思います。

(長岡市長)

1階フロアで見ていると、就学前の子どもが結構いますね。日系ブラジル人の方が、相当おられるね。どこで今、受け入れているのかわからないですけど。それから、皆さん明るいキャラで、消費意欲が旺盛で、地域経済にも相当貢献しておられますよ。買い物に行くと、すごい買い方をするから。

話は変わりますが、三木君、彼は大学に入ってから国枝君のテニスを見て、やっぱりやりたいと思ってから、わずかまだ、そう年数が経っていない。ロンドンで初めて出て、力試しというか、今度のリオでそれをもう少し確たるものにして、最終東京オリンピックで金メダルをとるとというのが、彼の目標です。

余計な話をしておりましたが、ちょうど時間となりましたので、事務局へお返しします。

(杉谷部長)

それでは、ありがとうございました。今回、会議の中でいただいたいろいろなご意見につきましては、ひとつは大綱の中で検討させていただきたいと思います。それでは、以上で予定をしておりました内容を終了しましたので、第2回総合教育会議を閉会させていただきたいと思います。どうも、ありがとうございました。

15:28終了